

# 川柳マガジンファンクラブ東京句会

## 句評会 提出作品一覧

### 第七回 平成19年1月14日

たたき売りする大根の悲鳴聴く 小倉利江  
 失敗の経験がある頼もしさ 杉山太郎  
 ミリタリールックが闊歩する明日 伊藤三十六  
 歳月の継ぎ目にふっとある出会い 井手ゆう子  
 マイセンの皿でレアーを食う平和 五十嵐淳隆  
 きみに逢う理由ばかりの予定表 松橋帆波  
 何と無く生きてるような気もします 村田倫也  
 年金を割って我慢を解き放す 徳永博重  
 二〇〇七なにはともあれ生き上手 山口千枝子  
 あら本気悪いわねでも頂くわ 森 青蛙  
 飲兵衛のDNAは孫が継ぎ 高田宣子

消えるまで手を振る嘘のない別れ 石田きみ  
 千の風千の枯れ葉が蝶々に 棚瀬くんじ  
 花咲けばつぼみの裏が表です 水音 遥  
 たくさんのヒトがメガネをかけている 南野耕平  
 しがらみが解けて本籍東京都 佐藤寿志子

### 第八回 平成19年2月11日

反核は悲願地球の年明けける 白勢朔太郎  
 叶わない恋をポストが嘲笑う 村田倫也  
 盗人を捕らえてみればオードリ― 植竹団扇  
 ヨーイドン迄は出発点にいた 山口千枝子  
 くすり指あなたは嘘がうますぎる 松橋帆波  
 千年も万年も生きたくはない 伊藤三十六  
 蛍雪の教えを嗤う文字離れ 五十嵐淳隆  
 温室の中で結んだ甘い夢 三浦哲夫  
 宣伝の効き目を知った閉店日 徳永博重  
 その先の地図が描けない温暖化 小倉利江  
 鉛筆でなぞる古典にもう飽きた 井手ゆう子  
 心の鬼追い払う大声の福は内 佐藤寿志子  
 ヒマラヤを臨んだ気持白い雲 棚瀬くんじ  
 責任の無い椅子からのいい意見 石田きみ  
 有名なホラ有名なホラホラホラ 南野耕平  
 産む機械故障で代り借りに行く 甲野竜雄  
 花道を説く御自分は飾らない 渡辺まもる  
 職業に向いてる顔と向かぬ顔 高田宣子

### 第九回 平成19年3月11日

マフラーと雪駄が話す馬話 森 青蛙  
 トイレ中メールが届くかねかえせ 甲野竜雄  
 苛めても苛められても傷残る 村田倫也  
 野良猫が逃げる気配を見せぬ路地 植竹団扇

呼び水をニートの皿へ掛けてやり 五十嵐淳隆  
 上品なサラ川買って読んでます 山口千枝子  
 おにぎりの様にいかない遺産分け 松橋帆波  
 絶望の隣にいつもいる希望 伊藤三十六  
 満ち足りて笑顔ゆがんでいる夕陽 三浦哲夫  
 丸窓に四季の絵を描く古寺の庭 徳永博重  
 不祝儀で疎遠の従姉妹顔揃え 関 玉枝  
 夕暮れの町に昭和が匂い出す 加藤品子  
 新人類いまや日本の屋台骨 渡辺まもる  
 櫻湯で名刺を交わす控え室 秋山 博  
 露出過多罪の一分ある痴漢 藤井成子  
 出来損いハラニイチモツの江戸っ子 高田宣子  
 手際よく押したがまたも削除キ― 秋山和子  
 きっぱりと煙草止めると言えぬ国 渥美恵泉  
 何処からか余生か線が見つからず 石田きみ  
 ロボットの歩を笑えない老いの膝 小倉利江  
 振り向けばいつも嵐の中にいた 白瀬朔太郎  
 桜咲くビルの鉄骨手抜きビル 棚瀬くんじ

### 第十回 平成19年4月8日

いい子です薬で心制御する 三浦哲夫  
 バスが来るまでに覚悟を決めなくちゃ 南野耕平  
 さよならとさよならとの深い溝 伊藤三十六  
 馬の目に予想はただのお念仏 徳永博重  
 花いちもんめ昔の顔で寄る仲間 小倉利江  
 今一度ガラガラポンにしてみました 村田倫也  
 嘘吐きは泡沫候補にはなれず 松橋帆波  
 百均店回れば見える資本主義 井手ゆう子  
 雨だれに音符が跳ねる古バケツ 白勢朔太郎  
 外国の嫁が主力の農作業 甲野竜雄  
 連行と拉致の違いが問われてる 植竹団扇  
 今更に夫の偉さ知る時給 北川キミ代  
 一球が正札ついたように見え 棚瀬くんじ  
 後継ぎという捨石を村に置き 秋山和子  
 何の列サア何でしょうでも並ぶ 高田宣子  
 まとめ売り中へうっかり稀購本 関 玉枝  
 肩書きを信じ人格見損なう 石田きみ  
 投げた匙拾ってくれた菩薩様 秋山 博  
 本 当 の 敵 は 隣 で 高 軒 渡辺まもる  
 ずっと先ポックリ願う札潜め 藤井成子

### 第十一回 平成19年5月13日

少しだけ好きでずーっと長く好き 井手ゆう子  
 誉めてるのけなしているの个性的 村田倫也  
 整形で恋人そしてゴールイン 山口千枝子  
 こそ泥の足音を消す夜半の雨 白勢朔太郎  
 稼いでる中央線は病気がち 甲野竜雄  
 ピストルを持つと撃ちたくなるんです 伊藤三十六  
 のびのびと伸びて葉ボタン苦笑い 三浦哲夫  
 十五の春の十八金の書き心地 植竹

団扇

飽食の国で嗤ったキリギリス 五十嵐淳隆  
逆算の結果なんかじゃないあたし 南野耕平  
演説の脇で寝ているホームレス 松橋帆波  
孫は来ず鐘馗の軸だけ垂れ下がる 棚瀬くんじ  
人間傲慢絶滅危惧種危機 高田宣子  
清貧が普通の暮らし里の村 北出冬馬  
知る権利かざしてマイク追って来る 北川キミ代  
肉体と心で生きる無我遠く 小林遊琴  
オー天晴れメル友になる孫の距離 藤井成子

第十二回 平成19年6月9日

妻が病み粥を炊いたら溢れさせ 甲野竜雄  
鯨食う食わぬでいがみ合う文化 徳永博重  
図書館にいる顔みんな賢そう 山口千枝子  
年金が消えると支持率も消える 松橋帆波  
思い出を半分にする大掃除 加藤品子  
古疵がほのかに疼くクラス会 秋山博  
ライオンに習うヒト科の子育て記 北川キミ代  
美しい国を見てから逝くつもり 石田きみ  
「7号」の体型 今や「15号」 高田宣子  
合言葉嗅ぎつけ事件記者走る 秋山和子  
曖昧に生きると人が寄って来る 伊藤三十六  
それよりも防犯省が要る日本 五十嵐淳隆  
甘党とちよっと男は言い難い 村田倫也  
大欠伸したのか猫の目に涙 植竹団扇  
麻疹です孫ではなくてうちの婿 棚瀬くんじ  
遺言書「まだ」と「もう」とがせめぎ合い 渡辺まもる

※第十二回は全日本川柳大会と重なるため前日土曜日に開催。

第十三回 平成18年7月8日

第十三回は、朝顔川柳大会参加のため、句評会はありませんでした。

第十四回 平成19年8月12日

その指はなんだと蜻蛉首傾げ 徳永博重  
花火の日らしい浴衣と乗り合わせ 小倉利江  
弁当をくばる一つ目前座なり 甲野竜雄  
聞き役にされてただけの信頼度 山口千枝子  
火元から煙が出ると限らない 伊藤三十六  
足湯から赤い靴下がゾロゾロ 植竹団扇  
青田刈り稲の無念や鷺の舞う 石崎流子  
にぎにぎを重ね誰あれも捕まらず 松橋帆波  
半世紀生きた誉めてはくれまいか 南野耕平  
決断の衣服席をそっと立ち 星出冬馬  
強冷の部屋で論じる温暖化 五十嵐淳隆  
目が合っただけで命をふいにする 村田倫也  
イエスノーだけで通じた世界旅 秋山博

ホームページ持たぬ私はホームレス 棚瀬くんじ  
ノンポリは結果出してから騒ぎ出す 加藤品子  
半端モノ帯も襷も困り果て 成瀬醉蟬  
墓掃除母の化身か蝶に会う 関玉枝  
綿飴ができそう霧のブナ林 秋山和子  
見送った尾灯別れの予感する 石田きみ  
梅雨晴れ間四つに組んでる草むしり 北川キミ代

第十五回 平成19年9月9日

字足らずの会話を笑い合う 小倉利江  
大木の周りうろつくばかりです 村田倫也  
梯子酒三軒目まで覚えてる 甲野竜雄  
風邪なんて僕にうつけば治るから 松橋帆波  
一番搾り山と積まれて通り過ぎ 星出冬馬  
秋空の下で素朴な琴となる 南野耕平  
義理不義理世話が焼けるな熨斗袋 白勢朔太郎  
一人じゃないだから孤独は快適だ 井手ゆう子  
緩慢な脱皮のように垢を擦る 植竹団扇  
自己紹介にも言うことありません 山口千枝子  
大地震怖くて千の風になる 伊藤三十六  
大男右往左往の土俵そと 棚瀬くんじ  
やさしさをハローワークは見抜けない 加藤品子  
子育てへ愛のシャワーが嫌われる 関玉枝  
九条を守る微力な蟬しぐれ 藤井成子  
往きに見た帰り未だ居る立ち話 高田宣子  
丑三つ時足音だけが尾けてくる 秋山和子  
ユーモアの人と溶け合うカフエテラス 石田きみ

第十六回 平成19年10月14日

銃声の間に挟むコマージュシャル 南野耕平  
来世への下見を兼ねてラサの旅 徳永博重  
覗かれていますとも知らず覗いてる 村田倫也  
資本主義行き着く先は詐欺でんな 松橋帆波  
尺取り虫を使ってる永六輔 伊藤三十六  
一献に袴を脱ぐ国訛り 白勢朔太郎  
バレリーナの爪先どんな形だろ 井手ゆう子  
介護した義母の遺産はもらえ無い 甲野竜雄  
草臥れて箸が杖つくバイキング 植竹団扇  
嫌煙者空咳演技二三回 高田宣子  
生返事飯も忘れる本の虫 関玉枝  
新しい朝へ目覚めた掌を合わせ 石田きみ  
道の駅足湯で名刺取り交わし 秋山和子  
うたた寝に喝が入った蟬しぐれ 北川キミ代  
つづけますハイオク満タン海の上 棚瀬くんじ  
追加したボトルが繋ぐ疑似家族 加藤品子  
一病が楽観論に水を差す 小倉利江

第十七回 平成19年11月11日

駅前の老舗あぐらをかいて売り 五十嵐淳隆  
このセンチ大丈夫かな患者の目 山口千枝子  
たわいなく猫の話なんかしてさ 南野耕平

此の度はどうも後が続かない 村田倫也  
国内で弁当にした鰻です 松橋帆波  
アウトロー気取った父の子煩惱 井手ゆう子  
納豆も氏索性まで調べられ 甲野竜雄  
王子様ブームを笑うテグジュベリ 植竹団扇  
昭和史の復刻本のおぞましき 伊藤三十六  
警策の音でっぺんに突き抜ける 三浦哲夫  
ふとんまで敷かせて演技だったとは 関 玉枝  
百日紅おまえも青春終ったな 棚瀬くんじ  
光り物付けて熟女の安堵感 加藤品子  
生き様で傘寿卒寿が逆の顔 高田宣子  
消しゴムがあるから愚か繰り返えず 石田きみ  
後ろ髪引かれる恋に振り向かず 絵 扇  
財務省百分率のお念仏 菅井京子  
生簀でも呼び名変えてく出世魚 渡辺まもる  
強がりの魔法も錆びた魔女の鬱 小倉利江  
憧れを仕舞い忘れたオモチヤ箱 阿倍闘句郎

第十八回 平成19年12月9日

忘年句会として、川マガ風袋回しを行いましたの  
で、  
句評会はお休みしました。